

ことのほか寒さの厳しい冬です。おかげでヴォーリス六甲山荘でも駒井家住宅でも雪景色を堪能できました。そして雪のかぶった木の枝には新芽がのぞいています。「・・春遠からじ」ですね。

お知らせ

- ・タイ交流旅行 2月6日(日)~10日(木)~12日(土)
- ・マーレード作り 2月15日(火)
- ・歴史的建築物研究会再調査 2月19日(土) 神戸市東灘区
- ・島の音楽会スペシャルコンサート~うた 島めぐり 2月26日(土)
- ・駒井家住宅公開開始 3月4日(金)
- ・ヴォーリス六甲山荘作業 3月5日(土)12日(土)21日(月・祝)31日(木)
- ・町並み研究会 3月18日(金)~19日(土) 天神崎
- ・歴史的建築物研究会再調査 3月26日(土) 芦屋市北部
- ・ヴォーリス六甲山荘公開開始 4月2日(土)

天神崎を訪問しましょう

~一泊による町並み研究会

先月ご案内しましたが、3月の一泊による町並み研究会(天神崎と湯浅、黒江)はまだ少し人数に余裕があります。日本のナショナル・トラスト運動のさきがけである天神崎のすがたをご一緒に見にでかけませんか。

月日: 2011年3月18日(金)~19日(土)

予告1

2月の歴史的建築物研究会 ~ 神戸市東灘区

2月の歴史的建築物研究会は神戸市東灘区の酒蔵地区をまわります。訪問先は御影公会堂、甲南漬の高嶋邸(登録文化財)、神戸地区で古い酒蔵として唯一残っている泉勇之助商店(登録文化財)、木村酒造、菊正宗酒造などです。御影郷の昔を偲ばせる建物をめぐりましょう。

日時 2011年2月19日(土) 午前11時 阪神石屋川駅集合
参加費 会員 1,000円 一般 2,000円(昼食代は別途自己負担)
昼食 高嶋邸平介茶屋
定員 30名
詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。



旧高嶋平介邸

【コラム】

2011年1月17日

清水 彬久

阪神淡路大震災16周年の日、初めてメモリアル・ウォークに参加した。芦屋市のグランドに集合して、記念式典のある神戸市の防災センターまでの約10kmの行程である。

当日は寒波到来で、底冷えのする寒さであった。川の流れるには薄氷が張り、日陰には残雪がある。六甲の山並みは薄化粧をしており、一週間前に行った六甲山荘の敷地一面の雪もしばらく融けそうになさそうだ。

8時30分に出発する。参加者の中に身をおき歩きだすと、震災直後の情景が蘇ってきた。『当時、交通網がマヒし阪急電車は西宮北口までしか動いておらず、西へはただ歩くしか手立てがなかった。食糧物資の入ったリュックを背負った人々が蟻の行進のように列をなして、いたるものが倒壊している惨状に呆然とし消息の安否を抱えながら無言で目的地に向かう』中にいる私がいたことを。そして歩き続けて行き、『阪神間の戦前の建築が震災を挟んで四分の一消失したことを3年間に亘って調査して確認した』町並みの中に歴史の証人のように佇む古くからの建築に出会う度に「ご苦労さん」と内心呟くのであった。

そうこうしていると公園が休憩所になっていて一息つく。「温かいぜんざいがあるから食べてってください」という言葉に誘われて、長い列の後ろにつく。しばらくすると「すみませんが途中でなくなるかもしれませんので勘弁してください」と叫び声がある。いまさら諦めるわけにもいかず我慢の子でいるとなんとか配給をうけることができた。冷え切った体には格別な美味であった。『訪れた避難所での炊き出しもこうだったなあ』と回想しながら「ああおいしかった。ありがとう」とボランティアのおばさんたちに感謝の言葉をかけ、再び歩きだす。要所に立つ防寒服姿の道案内役の指示に従い足を進めて行く。しかし後半になると不覚にも正月に新調した靴のため靴ずれを起こし、集団とは離れてしまう。よたよたとしながらも昼過ぎには無事完歩し、記念式典に参加する。そこでは小学生が合唱する『震災が生んだ曲「しあわせ運べるように」』を沁み入るように聴く。この日に携わった人々とは震災体験を忘れることなく明日に繋げていこうという連帯感で結ばれていた半日、私のレクイエム的一幕を終えた。



ご報告1 新年会 1月10日(月・祝) 草志舎

楽しいひとときでした。料理もお酒もたくさんの持ち寄りがあり、笑い声の絶えない会でした。荒木左江子さんの踊り、古座岩章子さんの地唄舞、宮井克也さんの独唱、清水彬久さんの鼓、高井和代さんのバイオリン、と皆さんの豊かな才能が華を添えてくださいました。自己紹介をかねた年頭の抱負も各人各様、実現できるといいですね。



ご報告2 歴史的建築物研究会再調査 1月22日(土) 神戸市舞子、塩屋地区

案内を出してからわずか2日ほどで定員に達するという大人気で、旧ジェームス邸の受け入れぎりぎりまで人数を増やしましたが、それでも数名お断りしたほどでした。旧木下邸、旧武藤山治邸、移情閣とそれぞれに歴史を背負った建物で見ごたえがありました。阪神間屈指の洋館旧ジェームス邸は細部にいたるまでこだわりがあり、さすがと一同堪能しました。旧グッゲンハイム邸では森本アリさんから維持の苦労話なども伺い、ティータイムでくつろぎました。



旧グッゲンハイム邸にて

連載

私たちの先駆者(第2回)

清水 彬久

外山八郎<「天神崎を大切にする会」創設者> その1

和歌山県田辺市は、紀伊半島の西南端に位置し、美しい海岸線のある田辺湾の自然が市民にとってごく自然な景観として融け込んでいます。その湾内は、黒潮の影響で海洋生物の宝庫と言われ、その一角に岩礁と海岸林が一体となった岬があり、そこを天神崎と呼ぶ。海域の岩礁にはサンゴが多数生息し、引き潮時には数多くの海洋生物を観察できます。そのような自然環境は、後背地の海岸林からの栄養素の提供や土砂の流入の防止という生態系メカニズムによって保全されているのです。

ところが、ここに問題が発生します。1974(昭和49)年に天神崎の丘陵地を高級別荘地にする開発計画が起ったのです。地元市民が、これを知った時には既に開発許可申請が県に提出されていました。このままでは大切な自然が失われるとして、原状を維持していくための運動が市民の中から湧きあがっていきます。直ちに「天神崎を大切にする会」を発足させ、一カ月で1万6千名の反対署名を持って県に陳情するのです。しかし、県からは県立自然公園内であるが、条例をもって開発を中止させることができず、「自然を残すのであれば、市民の皆さんが業者から買い戻すしか方法がない」という説明をうけるのです。そこで市民自らが買い戻すことを決意し、同年10月から「熱意表明募金」という名称で保存運動が開始されます。1976(昭和51)年には、最初の募金総額395万円をもって山林2390㎡の第一次買い取りが実行されました。その後も市及び県への陳情を行います。行政の態度に変化はありません。そこで1978(昭和53)年には、業者との交渉において、更に岬中央部の重要な湿原と山林の6176㎡を50百万円で購入することを決定します。しかし、その時点での募金総額は11百万円しかなく、不足額の40百万円近くを自らの手で調達するという大きな負担の伴う決断でした。何とかしなければという悲壮な成就の願いは、事業資金の名目で銀行からの借入れや事業資金の融通によって手当てする仲間、また予想を超える職場の同僚からの申し出などによって次々と結実していきました。こうして、第二次買い取りも無事完了させ高い壁を乗り越えるのです。この実績を踏まえて、県はようやく自然保護基金条例の適用に踏み切り、補助金を市に対して交付することで、第二次買い取り部分の一部が公費で取得されました。

長い苦節の経緯を経て、この運動は一気に注目をされることとなります。1982(昭和57)年には、朝日新聞の天声人語、NHK等のテレビ各社がこぞって取り上げ、全国から支援の輪が広がっていきました。現在この運動を継承する「天神崎を大切にする会」は、公益財団法人として市とともに第18次保全地まで取得を進め、保全・整備・教育の事業を展開しています。そして今があるのは、提唱者で礎を築かれた外山八郎氏の存在があったからです。同志から彼の献身的な姿に心打られたから成し得た偉業だと述懐されている足跡について次回述べることにします。

お薦めの本

佐藤泰志 著 「海炭市叙景」

廣田 喜久子

著者は1949年函館市出身。芥川賞に五度、三島由紀夫文学賞に一度候補となりながら1990年41歳の若さで自死した。遺作となった二章18篇からなる未完の連作短編集である。単行本は絶版状態だったがツイッター上で縁が結ばれ文庫として昨年秋復刊となった。

海炭市という架空だが著者の故郷である町を舞台にし、そこで暮らす市井の人々18人が主人公となり各篇丁寧に静かに物語は進んでいく。嘗ては炭鉱と造船で繁栄した町も80年代後半から90年初頭には既に疲弊しており、構造不況によるリストラの波に呑まれる人や町、そんな中でも日々の生活があり、これからもずっと続く、それが人生であろう。決して絶望的には描かれていないがハッピーエンドでもない。各篇余韻を残した終わり方である。

第一章の「まだ若い廃墟」「夜の中の夜」「裸足」第二章の「真っ当な男」「猫を抱いた婆さん」「衛星的生活」が何処にでもありそうな日常や人間の弱さ寂しさ切なさ自尊心そして逞しさのそれぞれは愛しくて印象に残った。

この本は北国の厳しい冬から初夏にかけての季節が書かれているが著者は夏秋を加え四章36篇で完結の予定であった。叶わぬことだが続きを読みたくなった。故人を惜しむ人々の手によって映画化され現在上映中、時代背景等違うが微妙な意味合いは汲みとれる。地味だが感慨深い小説である。(小学館文庫 ¥650)

< 次回は芦田雅子さんをお願いします >

おしゃべりアラカルト

スタンドグラスとタイルの話を少々

田野辺 恭子

初めての六甲駅下車。東京組にとって雲空でも心は弾みます。図書館に入館するという事は開かれた国立大学でも難しく、旧神戸商業学校図書館のスタンドグラスの写真撮影もできたという本当に嬉しい見学会でした。スタンドグラスの基調色は水色、淡緑色等に赤、青、緑等アクセントの抽象的な柄です。ガラスの天井はタイルの様に並び、壁からアーチの窓へ格子が続く個性的なデザインです。

見学先の講堂、兼松記念館、本館、図書館は昭和初期(7~10年竣工)の建物に共通して布目タイルやスクラッチ等現代にはない柄タイルが多用されています。ベージュを基調に茶、青味がかった釉薬が美しい物です。圧巻なのは本館貴賓室に向かう階段室で、二色の茶の濃淡の小口タイルが市松模様に張られ、昔の職人達の丁寧な仕事振りに感嘆するばかりです。当時流行のオールデコの照明器具も柱上部金属とデザインを合わせ細かい所まで配慮されているのは嬉しい限りです。講堂正面扉の舵

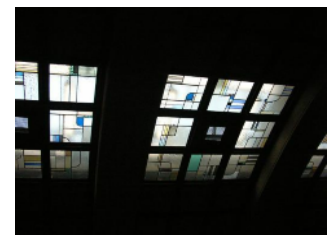
輪の窓飾り等をデザインした金属類は戦争中供出され数年前に復原された物。構内にあるデザインに注目すると船や波等海に縁の深い神戸ならではの形が多いとの事です。

午後の六甲台の住宅見学で素晴らしいのは大学同窓会所有のロイ・スミス館でした。玄関上部庇が大きく弧を描くスパニッシュでポーチ床は何と三角形タイルの組合せ。玄関床は大胆な花のモザイクタイル。窓は庭を映す花型のスタンドグラス・・・室内テラスにも海と松林のスタンドグラスがあり、床は小口の六角タイルを花柄に並べた物です。

この様に昭和初期の建物は細部までデザインされ隅々まで職人の心意気が詰って飽きさせない邸宅が多いのです。現代にないデザイン、材質等見学会で観察すると楽しい発見があるのではないのでしょうか。

< 2010年12月11日
歴史的建築物研究会
(神戸大学と周辺) >

天井のスタンドグラス



六甲山荘だより

1月29日(土)に作業をしました。数日前に降った雪がしっかり残っており、山荘は一面雪景色です。あちこちに動物の足あとがあります。それも2~3種類の大きさです。木の枝から屋根に跳び移った足あともありました。室内温度がマイナス0.5度!水道は水抜きをしているので異常ありませんが、屋内の排水管が凍っていて流しの水が流れません。去年はこんなことはなかったもので、今年がいかに寒いかが実感されました。

作業は和室(アイロン室)の床下に湿気対策として昨年入れた炭袋を取り出して日向で乾燥させました。またスタッフ室の畳をあげて下の板を点検しました。



駒井家住宅ニュース

京都では今ミュージアムロードというタイトルで、あちこちの施設が春にちなんだイベントを開催していますが、今年には駒井家住宅も参加して「駒井家住宅で和の春を楽しむ」という企画を行っています。会員の谷口静子さんが中心になって、部屋に親王飾りを置き、親子で楽しむ生け花体験（大人だけでも可）をしていただきます。

希望者には抹茶と和菓子もお出しするものです。2月5日（土）と3月6日（日）にも行います。駒井家住宅をゆっくり楽しめる機会です。参加ご希望の方はご連絡ください。

参加費：花材、花器込み）5,000円 持ち物：花はさみ（キッチンハサミでも可）



私たちの手でヴォーリス六甲山荘を育てましょう！

ヴォーリス六甲山荘募金報告（目標金額 2000万円）

12月の募金状況 79,400円 <累計8,879,998円（602名から1,567口）>

会員 78,400円（14名から15口） <累計4,645,670円（423名から925口）>

一般0円 <累計3,323,745円（198名から662口）>

一般団体 0円 <累計81,000円（5団体から16口）>

その他 1,000円 <累計832,883円>

振込口座・郵便局 00950-5-36168 アメニティ 2000 協会



雪のヴォーリス六甲山荘

アメニティ・レポートの原稿募集

5月末の総会にあわせて発行するアメニティ・レポート2010の「会員の声」への原稿を募集します。題は自由、日頃考えていること、印象に残ったこと、面白い経験などなど、お好きなことをお好きなように書いて、お寄せください。

字数：400字前後

締切り：3月末

皆さまの「お声」を楽しみにお待ちしております。

スタッフ募集

マーマレード作り

マーマレード作りの季節となりました。第1回は越智さん（大三島）のハッサクが材料です。できたマーマレードは六甲山荘の喫茶で使用したり販売したりします。みんなでおしゃべりしながら楽しく作りましょう。ご参加できる方はご連絡ください。

日時 2月15日（火）午後1時

場所 草志舎

持ち物 包丁、エプロン

島の音楽会～うた 島めぐり

畑儀文さんが指導する離島の子供たちが集合して歌うコンサートが次のように開かれます。会場の芸術文化センター大ホールの定員は2,000名。みんなでかけて応援しましょう！

日時 2011年2月26日（土）午後1時半

場所 兵庫県立芸術文化センター 大ホール

入場料 2,000円

チケットご希望の方はご連絡ください。